

## 徳としての倫理に対する懐疑と教育という視座

立花幸司（千葉大学）

「道徳」に対する懐疑は様々な時代に色々な形で提起されてきた。しかしながら、私自身は道徳について根深く懐疑的であるわけではなく、それゆえ道徳懐疑論に向こうを張って強力に反論を展開することも（色々な意味で）できそうにない。そこで私は「徳」に話を絞って提題を行う。まず、「徳」に対する懐疑論と反論を幾つか確認する。次に、その論争が含意するものを建設的な意義として取り出す。その上で、徳の教育は常に今とこれからを生きる人たちを対象としている点に注目し、徳に関する建設的な懐疑を提案する。結論として、1980年代から研究者らに指摘されてきた徳目の改訂（阻却）可能性に別の仕方で辿ることとなる。そして、徳の教育の目標とは、確実な道徳的知識（徳）の伝授ではなく、「間違っている可能性はあるけれど、私たちの実践的な合理性に基づけばおそらくこれが理に適った…」という仕方で世界と向き合うような、謙虚でプラグマティックな形態の徳だと主張する。